

「岩手県における定期健康診断の有所見者の増加要因に関する研究」

主任研究者 岩手産業保健総合支援センター所長 角田 文男

共同研究者 産業保健相談員 立身 政信・中屋 重直

1. はじめに

一般定期健康診断の有所見者の割合は、年々全国的にもほぼ直線的な増加傾向にあるが、岩手県内のそれは全国の割合に比べて約9ポイント高くなっている。また、岩手県人口における生産年齢人口(15歳～64歳)の割合は緩やかに減少している(平成2年:66.4%→平成10年:64.2%)のに比べ、有所見者の割合は急増している(平成2年:32.7%→平成11年:51.4%)。

この急増する有所見者率を性・年齢階層別、業種別に解明し、今後における産業保健活動を重点志向に行うための基礎資料を得る目的で本研究を実施した。

2. 研究方法

すべて同一の健康診断実施機関が実施した平成11年の定期健康診断の結果、いわゆる有所見者率(規定の健診項目のいずれかが有所見であった者の率)が岩手県の平均有所見者率(51.4%)より高い食品製造業(有所見者率63.8%)、金属製品製造業(同55.7%)、通信業(同63.6%)及びその他の事業(64.9%)の合計242事業場25,228人(以下、高有所見率種)と、有所見者率が最も低い金融広告業(有所見者率40.5%)40事業場4,237人(以下、低有所見率業種)についてデータ解析を行うとともに、あらかじめこれらの事業場にアンケートによる調査研究への協力を依頼し承諾した事業場を対象事業場とした。

承諾した事業場数は高有所見率業種が143事業場(56.3%)、低有所見率業種が10事業場(31.3%)であった。対象事業場の労働者に生活習慣と労働負荷(作業内容等)についてのアンケート調査を実施し、健康診断のデータ解析で推定した生活習慣及び労働負荷等と比較検討した。

3. 結果及び考察

1) 業種別に見た一般定期健康診断項目別有所見者率の状況

表1に高有所見率業種と低有所見率業種の一般定期健康診断検査項目別有所見者率を示した。

表1 業種別一般定期健康診断項目別有所見者率

業種	高有所見率業種	低有所見率業種
受診者数	25,228	4,237
全項目(%)	63.0	40.5
1000Hz聴力(%)	6.5	3.1
4000Hz聴力(%)	10.5	5.2
胸部X線(%)	3.2	2.0
心電図(%)	9.6	8.4
血圧(%)	16.4	10.1
肝機能(%)	21.7	14.4
脂質(%)	35.1	21.3
貧血(%)	14.0	8.6
尿蛋白(%)	4.0	2.5

尿糖 (%)	4.0	2.7
血糖 (%)	10.0	5.7

両業種間には有所見者率で20%以上の開きがあり、すべての項目において高有所見率業種が高い有所見率を示している。聴力における著しい差は年齢構成の違いが考えられ、肝機能や貧血あるいは血糖などの差は性別の受診者数の違いを示唆している。しかし、脂質検査での15%近い違いは性・年齢構成のみではなく、生活習慣の違いをうかがわせる。

2)生活習慣と労働に関するアンケート調査結果

アンケートの回収率は高有所見率種が143事業所の3,205人(49.0%)、低有所見率業種が10事業所の528人(28.2%)であった。表2に回答者の性別業種別年齢構成を示した。

表2回答者の性別業種別年齢構成(数値は%)

性別	男	男	女	女
業種	高所見	低所見	高所見	低所見
20歳未満	1.4	1.2	1.6	0.0
20～29歳	23.2	11.2	22.8	20.9
30～39歳	26.5	23.9	18.4	25.3
40～49歳	24.4	34.7	24.4	27.1
50～59歳	18.8	27.5	23.3	20.9
60～64歳	1.4	0.0	4.4	1.1
65歳以上	0.5	0.0	0.2	0.7
回答者なし	8.9	1.5	4.9	4.0

男女共低有所見者率種(以下「低所見」)の方が高齢に分布している傾向がある。健康診断結果に見られた有所見率の違いは高有所見率種(以下「高所見」)で高齢者が多いとした予測とは相容れない結果であった。

一方、男女比は「高所見」が2212対993でおよそ2.2であり、「低所見」では251対277と約0.9であった。男女比が逆転している状態であり、健康診断結果に見られた両業種の違いは男女の構成比によるところが極めて大きいものと判断せざるを得ない。したがって、生活習慣等のアンケート結果は男女別に検討する。出勤日の起床時刻を表3、就寝時刻を表4に示した。

表3 出勤日の起床時刻(数値は%)

性別	男	男	女	女
業種	高所見	低所見	高所見	低所見
4時代	0.6	0.8	2.0	0.4
5時代	7.4	11.6	27.4	16.2
6時代	45.3	48.2	48.0	59.2
7時代	26.0	27.9	13.5	17.0
8時代	5.2	6.4	3.3	3.6
交代勤務	9.5	0.4	4.6	2.9

不規則	5.8	4.7	2.6	0.7
-----	-----	-----	-----	-----

表4 出勤日の就寝時刻(数値は%)

性別	男	男	女	女
業種	高所見	低所見	高所見	低所見
8時代	0.9	0.8	0.8	0.0
9時代	4.8	0.8	5.7	1.8
10時代	16.7	11.2	22.4	12.3
11時代	29.4	37.1	36.6	33.9
12時代	17.8	26.3	15.8	30.3
午前1時過ぎ	5.9	5.6	3.2	7.6
不規則	24.4	18.2	14.7	13.4

男では交替勤務が「高所見」に多く、女では早朝に起床する者が「高所見」で多い。就寝時刻は男女共「高所見」が早く「低所見」が遅い傾向にある。起床時刻と就寝時刻の関係から、睡眠時間は「低所見」でやや短い傾向がある。

その他の主なアンケート結果について表5に示した。

表5 その他の主な回答結果(数値は%)

性別	男	男	女	女
業種	高所見	低所見	高所見	低所見
残業あり	63.1	53.0	33.6	34.7
運動習慣あり	9.4	16.3	7.0	9.4
甘味飲料毎日飲む	54.3	28.3	36.0	17.3
喫煙者	59.4	57.0	10.1	22.4
飲酒者	43.8	49.0	6.3	17.3
1年で体重増加あり	13.6	19.5	15.9	17.3
1年で体重減少あり	5.5	18.7	3.3	16.2
健診で殆ど異常なし	44.5	34.7	56.2	63.2
騒音が大きい職場	36.2	5.2	37.2	11.6

残業は週1日程度2時間未満のもの以上を表示したが、「低所見」の男で少ない傾向がある。週3回以上の運動習慣を持つ者は男女共「低所見」に多い。飲食物に関しては、缶コーヒー等の甘味飲料をほぼ毎日飲む者は男女共「低所見」が少ない。喫煙・飲酒共に「低所見」の女で比較的多い傾向にある。1年間で多少とも体重変動があった者は「低所見」に多い。健康診断で異常を指摘されることが殆ど無いという者は「低所見」男に少なく「低所見」女に多い。この「低所見」に女が多いことが「低所見」全体の有所見率を下げていることが確認できる。

騒音職場であるという者は圧倒的に「高所見」に多い。定期健康診断の聴力検査での有所見率はこうした業務内容を反映していると考えられる。

4. おわりに

金融広告業は女性労働者が多いことが他職種より有所見率が低いことの最大要因であると思われるが、業務内容や生活習慣にもいくつかの特徴があり、これらの要因が健康診断の有所見率に寄与していることが示唆された。男女別の健診項目別有所見率と生活習慣等の関連性を検討して確認する必要がある。